

資本コストや株価を意識した 経営の実現に向けた対応

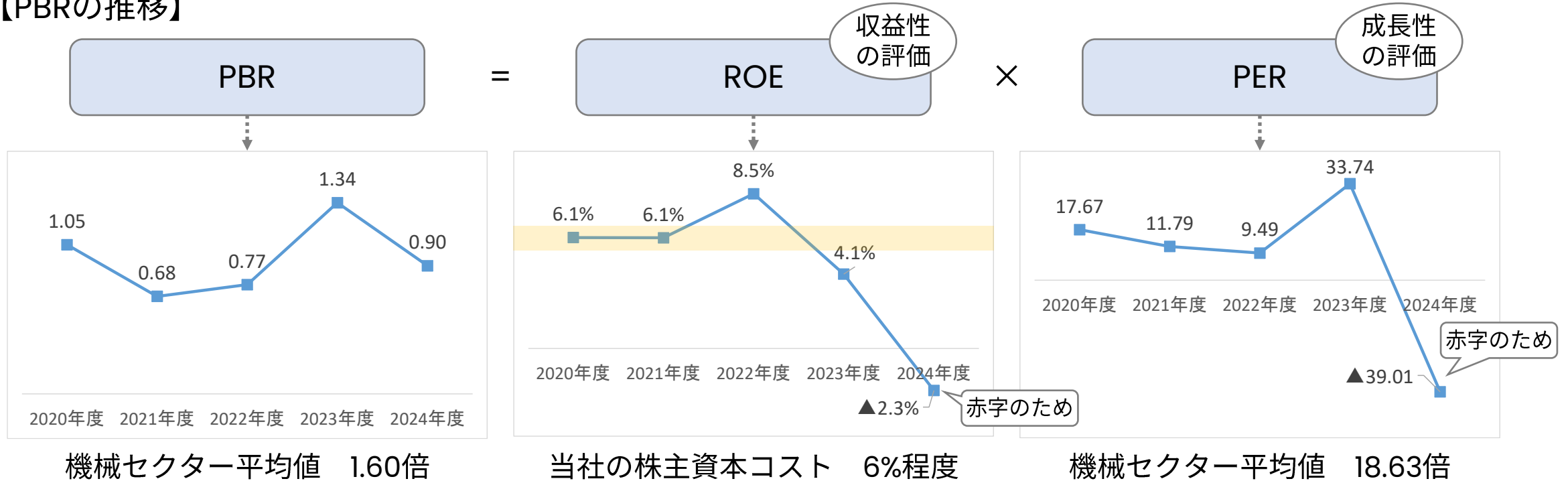
(第4次中期経営計画：2025年度～2027年度)

2025年4月4日



PBRは2023年度末時点に1.0倍を上回ったものの、2024年度末時点では1.0倍を下回る水準。
株主資本コストに見合ったROEを安定的に実現することが優先課題と認識。

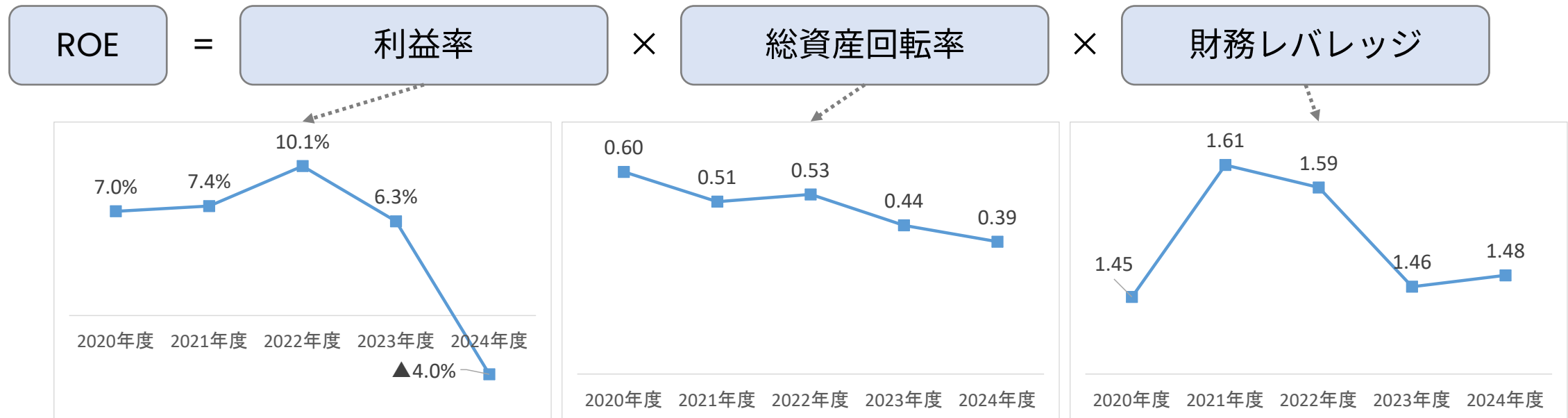
【PBRの推移】



- PBR：決算日の株価終値÷1株当たり純資産で計算
- PER：決算日の株価終値÷1株当たり当期純利益で計算
- 当社の株主資本コスト：CAPMによる推計値
- 機械セクターのPBR・PER：日本取引所の『規模別・業種別PER・PBR一覧』よりプライム市場の2024年平均値を当社算出

ROEの構成要素別では、利益率の回復が最優先課題と認識。
 また、総資産回転率や財務レバレッジも低い水準で推移しており、それぞれ改善が必要。

【ROEの分解】



- 利益率：親会社株主に帰属する当期純利益 ÷ 売上高
- 総資産回転率：売上高 ÷ 総資産（期首・期末平均）
- 財務レバレッジ：総資産（期首・期末平均） ÷ 自己資本（期首・期末平均）

第4次中期経営計画期間においては、ROEの改善を優先課題として取り組む。
 中期経営計画の遂行を通じた利益率の改善、B/Sのスリム化、有利子負債と自己資本のリバランスがポイント。

【取組み方針】

取組み方針

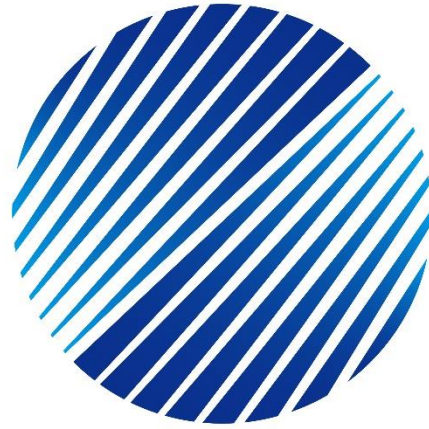
ROE改善	利益率の改善	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 中期経営計画の遂行を通じた利益率の向上（特に、原価率の改善）
	総資産回転率の改善	<ul style="list-style-type: none"> ✓ グループ内の資金効率化を通じた現金保有水準の圧縮 ✓ 契約資産・仕掛品の圧縮（受注～出荷・検収のリードタイム短縮）
	財務レバレッジの上昇	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 株主還元強化による自己資本の適正化 ✓ （財務安全性を担保したうえで）有利子負債の活用
PERの改善		IR活動の堅実な実施を通じて... <ul style="list-style-type: none"> ✓ 透明性の向上（サプライズ発生の回避） ✓ 成長ストーリーに関する対話促進 ✓ 投資家からのご意見を経営陣へフィードバック
株主資本コストの低減		

第4次中期経営計画の最終年度（2027年度）においては、まずROEを株主資本コスト水準まで回復させ、PBRは1.2倍以上を目指す。

【2027年度の目標水準】



● PBR：決算日の株価終値÷1株当たり純資産で計算



ZUIKO

IRに関するお問い合わせ先

株式会社瑞光 経営戦略部

電話：072-648-2215

e-mail：ir-contactus@zuiko.co.jp

本資料に掲載している将来予測に関する情報は、当社が現時点で合理的と判断する一定の前提に基づいています。そのため、実際の結果と大きく異なったり、予告なしに変更される可能性があります。